

# 2026 AUTOBACS SUPER GT Round1 OKAYAMA GT 300km RACE



学生広報作成 レースレポート

～この活動は多くのスポンサー様に支援されています～

専門  
学校 **日産京都自動車大学校**



みなさんこんにちは！

今回のメカニックチャレンジで広報担当をする、日産京都自動車大学の親木と和久利とラジカです！前回、リーダーをしてくれた中野先輩はオブザーバーとして参加してくれています。初めての出来事なのですがくじけず前向きに頑張ります！

## レース結果

2026年の岡山開幕戦の56号車の順位は・・・？

残念ながら14位という結果でしたが、まだ開幕戦なのでこれからです！

次の富士では1位を取るのに、これからも「リアライズ日産メカニックチャレンジGT-R」の応援を引き続きよろしく願いいたします。

## 目次

P3 学生の目線分析

P5 近藤真彦監督インタビュー

P7 ドライバーお二人へのインタビュー

P9 KONDO Racing 阿藤さんへのインタビュー

P10 木村選手&檜TS インタビュー

P12 番外編！？「ついに乗ったぞ！パトロールニスモ試乗記」

P13 今回の活動についてのまとめ、感想！

## 学生の目線分析

今回のレポートではまず、学生が気づいたことを学生目線でお届けしたいと思います。三者三様の気づき、学びをお届けします。

Q.力を合わせることの大切さをどこで感じた？(担当：ラジカ)

A.能力が高い人や同じ役割、分野が得意な人を集めて物事をこなそうとしても意味がなく、例えばレポートを作るのが得意な人、動画作成するのが得意な人、取材をするのが得意な人。人それぞれその分野にそった人材を集め、力を合わせると、他のチームよりもはるかに磨き上げられた完璧に近いグループになると思います。



インタビューを行うラジカ

Q.チームワークの大切さってどこにある？(担当：親木)

A.チームワークで大切な事はリーダーであれば、他の班長同士の情報共有や体調管理などだと思います。僕が日産メカニックチャレンジで感じたことは、リーダーは班員に指示すること、そして班員はリーダーの指示を待つ前に動くこと。それぞれの立場を考えた行動をすることに大きな意味があると感じました。例えば、今回の岡山戦の広報の仕事でしたら動画作成やレポート作成、取材についての役割分担の指示をしました。そのほかの活動でホスピタリティは、来客者様の接客で、自ら周りをよく見てお客様の体調を伺ったりしたりなど些細な気遣いやおもてなしをするといった事がチームワークだと思います。

Q.日産メカニックチャレンジ、広報活動の楽しさ(担当：和久利)

A.この活動に初めて参加して感じた楽しさをお話します。近藤真彦監督にインタビューしてみても、芸能をされている方なので少し話にくいかと思っていましたが、思っていた以上に話しやすく答えていただきました。質問を色々な方面から拾っていただけて、話が広げやすくその内容も面白かったのでとても楽しい時間でした。木村選手のインタビューに関しては、学生に対して思っていることを素直に話していただけて、プロだと感じました。とても貴重な時間で楽しさというものを学びました。



塩川さんのレクチャーを受ける和久利（左）と親木（右）

## 近藤真彦監督インタビュー

毎戦恒例の近藤監督のインタビューです！岡山戦ではちょっと柔らかく、監督のお人柄やプライベートについてもお聞きしました。

Q.近藤監督は子供の頃に野球をされていた時があるとお聞きしましたが、野球で学ぶレーシングチーム内で大切にしていることはありますか？

A.レーシングチームでは全員4番バッターはいらないよね！強い人が集まっても意味がなく、そのポジションやその場所専門のエンジニアに優れている人がいた方が良い。意味もなく、強い人や優れている人材を集めても意味がない。その役割分担にあった人が大切である。



Q.親木学生が愛するハンバーガーに関連して、近藤監督のハンバーガーに対する気持ちをお聞きしました。

A. 実際にはモスバーガーが好きなんだけど、マクドナルドのCMで年配の方が(俺は今でもビッグマック行けるぜ!)というCMを見て、この年になったら、ビッグマック食べねえだろみたいな話をされるから、冗談だろと思って買って、食べてみたわけ。そしたら案外ペロッと食べられて、ビッグマックが丁度いい大きさだよなって思った。その時に、何歳までビッグマックを食べられるかなってのが今の課題なのかなって思ってます。



ハンバーガーにかぶりつく (?) 近藤監督

## ドライバーお二人へのインタビュー

こちらでも毎年恒例のドライバーインタビューです。今年は新加入の木村偉織選手にもお話を聞きました。



オリベイラ選手（左）と木村選手（右）

Q.オリベイラ選手が思う日本のおすすめな場所はどこですか？

A.私は日本の色々なところへ自転車で行っています。車で行くと狭い道や車でアクセス出来ないところがあるから車ではあまり行かないです。自転車で行くと色々なところを走ることができます。例えば、東京から山梨県まで行ったり、奥多摩へ行ったりしたらめっちゃきれいなところがたくさんあります。また、特に岡山から鳥取の間がとても綺麗で感動的です。自転車で走るのが一番いいことで、日光の方もきれいで、私は結構長野へ行っています。そこはとてもきれいな山があり3000mぐらい高い山があるから、長野が一番好きなところで

Q.オリベ이라選手の好きな国々紹介！

A.文化、食べ物などで分かれていてそれぞれの国が好きです。例えばブラジルはみんな元気で、かっこいい！なのでブラジルが好きです。ブラジルへ行ったらエネルギーを感じます。ですが！それよりも日本が私の一番好きな国です。日本の色々な場所やスポットへ行くのが一番好きです。私は日本に長い間住んでいるから、日本のことをよく知っています。とても平和だと言われてきました。国ごとの文化の違いが好きです。

Q.木村選手がリアルだと思うレースゲームはなんですか？

A.アイレーシングか、しっかりデータを作ったアセットコルサがリアルだと思う。アイレーシングは買ってすぐにリアル。アセットコルサは買ってからタイヤのフィーリングなどをアジャストする事ができる点で、アセットコルサはなんでもできる。ちなみにマリオカートも好きです。

Q.チームについて。日産メカニックチャレンジで学生さんが参加していることに対して思っていることや伝えたいことは何ですか？

A.みなさんすごく一生懸命に作業してくれてとても感謝している。メカニックっていう仕事のメインはレースじゃなくてディーラーにもなると思うけど、ドライバーとして命をかけて作業をやっているプロフェッショナルっていう気持ちはあるけどそれはメカニックも同じでレースじゃなくても、日頃の整備での安全管理など、そういうところが大事なことだと思うのでみなさんがやっていることはお客様の命を預かる仕事だと思うからそこに誇りを持って取り組んでほしいと思っています。

## KONDO Racing 阿藤さんへのインタビュー

Q.アシスタントマネージャー阿藤さん、今のお仕事でどんな役割を持っているのか？

A.一般的にアシスタントマネージャというお仕事をしていて、その中でドライバーさんのお世話をしたり、チームメンバーの体調を見たりイベントとの関係の役割を持っています。イベントというのはピットウォーク、キッズウォークなどの準備をしたりしています。私の会社ではスポンサーのケアをするスタッフもいます。

Q.今しているマネージャのお仕事はどのように知ったのか？

A.雑誌の求人で見つけました。オートスポーツという雑誌で出会いました。その雑誌では今でも会社が求人を出していて、それで採用をしてもらった感じです。私は当時、運が良かったと思っています。

Q.学生達と一緒にこの仕事をするに対してはどう感じているのか？

A:各サーキットまで学生さんが来てくれているから、私はちょっとした作業でもやらせてあげたいと思っています。また学生達から楽しかったと言われると私も達成感や満足感でとても嬉しくなります！

## 木村選手 & 檜TS インタビュー

今回の岡山戦では、56号車のドライバー木村選手とTS(テクニカルスタッフ)の檜さんがお子さまの頃からの仲の良い親友という事でインタビューしてみました！



満面の笑みを浮かべる木村選手（左）と檜TS（右）

Q.おふたりの出会いはいつなのか？

A. 元々お互いにカート選手権「KRP」のレースで出会いました。300と500を走ってるドライバーでは木村選手から野尻選手ぐらいまでの年齢層の人は大体KRPで育ってから出てきている。

Q.カート生活はいつまで一緒にしていた？

A.2010年ぐらいのレースが最後で一緒に走った。そこからお互いレースは続けていたけど出るシリーズが変わってきてレースでは会うことが少なくなりましたね。けれどお互いにレース場へ応援しに行ったりはしていました。その他に、2人でディズニーランドに行ったりなどのプライベートでの交流はありました。

Q.またこのような形で会っておふたりはどのような事を思っているのか？

A.木村選手は、冗談でネジがちゃんと締まっているかなーって思ってます笑。大学生の時は、お互いに時間がきついので会うのもサーキットの応援に来てもらった時しかなくて、ゆっくり一緒に過ごせることが少なかったですが、SNSでは話したりしていますね。この間2人で、ご飯へ行った時には昔の話で盛り上がってあの頃と何も変わらないなあって思いましたね。昔は、日産に入るつもりはなかったけれど、近藤監督がチームへ招待してくれてご縁もあってその上にタイミングもいいから今年はいいい1年になりそうでわくわくした瞬間でした。

Q.檜TSはどう思っているのか？

A.お互いお仕事でやっているもので、ミスして迷惑をかけたくはないですね。なので、木村選手の見やすい左前で作業をやっていました笑。現場で見てみて雰囲気とかも今も昔も変わってなくて、何年後かに同じレースをすることはないかなと思いながら見に行くことはあったけれど、今回タイミングがあって一緒にお仕事できて色々な意味で運がいいなって、お互い気の知れた親友だから出会いと機会に感謝したいですね。



56号車の前で記念写真！

## 番外編！？「ついに乗ったぞ！パトロールニスモ試乗記」

レース中にクラッシュなどのアクシデントがあった際、いち早く現場に駆け付け、迅速な救出活動や消火活動などを行うシステムであるFRO（First Rescue Operation）。今シーズンからその際に使用する車両として、先代（Y62）に引き続き、新型パトロールNISMO（Y63）が採用されました。今回なんと、コース試走の際に学生広報が同乗する機会をいただきましたので、その様子をレポートします。

車両の生産は福岡県にある日産車体九州で行われ、エンジンの製造は福島県にある日産自動車いわき工場で行われており、実はメイドインジャパンなパトロールNISMO。同乗した感想としては、とにかく「スゴイ！！」の一言に尽きます。ツインターボがもたらす強烈な加速やコーナリング時にロールをほとんど感じさせない安定感は、まるでGT-Rのよう。そのパフォーマンスの高さは車重2.5トンを超えるSUVとは思えません。ストレートで加速した際、背中がシートにグッと押し付けられ、思わず感嘆の声が漏れてしまいました。しかし、そのあとすぐにドライバーの方が「これでも8割くらいしか踏んでないよ」とおっしゃっていたのを聞き、まだまだ伸びしろがあるのかと驚きました。

中東地域を中心に絶大な人気を誇るパトロールは、2027年前半に標準モデルの日本市場への導入が決定しましたが、果たしてNISMO仕様車は導入されるのでしょうか。技術の日産を体現するクルマであるだけに、期待が膨らみます。



## 今回の活動についてのまとめ、感想！



こんにちは、今回の岡山戦、学生広報統括の親木です！前回は初めての参加で今回が2回目の参加です。前回の鈴鹿戦では統括ではなく普通の広報で活動していました。統括というのはいわばリーダーです！そうです。二回目の活動で僕はリーダーになりました。前回の活動を踏まえて今回の岡山戦、やはり責任感というものをすごく感じました。鈴鹿戦では、リーダーから指示をだしてもらいインタビューや撮影などをしてきましたが今回はその指揮をとったり、役割分担、動画作成やレポート作成など仕事が急に増えて、はじめは、こんな僕に広報統括が勤まるのか、途中で抜け出そうか考えたりもしてました。ですが、周りからの期待や応援を裏切りたくはなかったので、勇気を出して挑みましたが、何とか乗り切ることができました。そこで僕が学んだことは、一人で課題を抱え込まない事です。リーダーだから頑張らないと、ちゃんとしないと、と思っていたけれど、広報の班員に課題を話したら自分では思いつかない案を出したり、サポートしてくれたり。何事にも一人で悩まずに周りに助けを求める事が大切だと知らされた気がします。これは、リーダーに関わらず班員にも言える事だと思います。